

女
シリーズ

であるだけで

シリーズ

用の仕事が見つかれば、パ

トや派遣で事務職に就きました。非正規の育休制度がないまま結婚後に退職し、子どもが生まれますが離婚。再就職するにも非正規しかなく、苦労しながら仕事と子育てを続けてきました。

「非正規の仕事の方が決まりやすいので、選択の余地がない」非正規で働くことによって

【千葉県に住むシンクルマザーの女性(40代)】
「正社員で勤めたことがありません。約4年勤めた千葉県内の公務職場を3回、実習期間はめになりました」。

女性1000人以上の学校を卒業。就職氷河期で正規雇

A high-contrast, black-and-white photograph showing a person's arm and hand reaching towards the left. The person is wearing a dark jacket over a light-colored shirt. The background is dark and textured.

非正規しか選択肢がなかったという女性

40代非正規雇用繰り返し

卷之三

重層的な困難が

も相手の心で、おれの心では無
しませんでした。しかし、や
わらか探用された女性は懸口
経験がありませんでした。

重層的な困難が
変わらぬ間に印刷し、更前
の大量の未配布分をショレッ
ターにかけます。雑用にむな
しきを感じてつたむじい。半
年後に窓口部屋の事務に異動
しました。

職場では年配の男性からの
セクハラに悩まされました。
子どもの進学について相談す
ると食事に誘われ、進学支援

業務の説明がないまま問い合わせの電話に応対しまし
正規雇用に就けないだけで

た。利用者に「職業条件と違う」と言われても答えられず、「上司に聞くと」「聞き取りだけしない」と怒鳴られました。求職者のために答える、「自分がどきのため上

人は動かない、書いても黙っても愚いながらも、
えずは答へられないことが続
とあきらめてきた。職場で嫌
が、「詰めた」と思いながら
半泣きで叫いた」と振り返り
ます。

部署の責任者には無視され、仕事を与えられませんで、行儀を認められず、職場へ復した。パワーハラの典型例で、娘したい」と強制的労働局に訴え。仕方なく正規職員がや調べを求めてこます。

契約終了前、責任者から「次回の契約更新後は窓口業務を」と言われました。募集が事務の条件だったと述べても、「窓口」の経験がなければ次回応募しても採用されないと述べた。封閉的な価値観と積み重ねられてきた差別の根柢。職場で女性たちの姿を描きます。